



令和5～7年度 海外留学体験記



Memories in Canada

Airport



Lynn Canyon



English lesson



Downtown Vancouver Tour



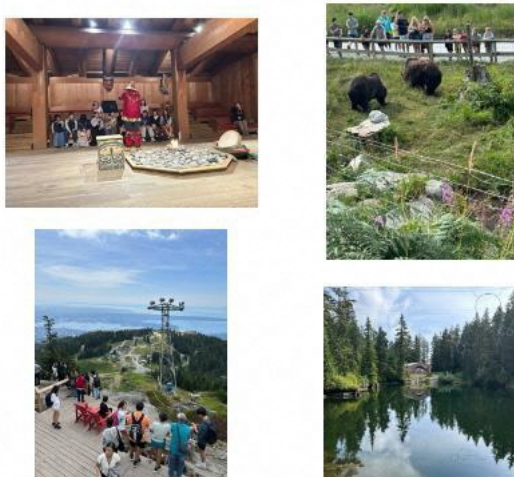
Blueberry picking



Interaction with Buddy



Graus Mountain



Farewell party





Canada



美しい自然
温かな家族
美味しいご飯
毎日が楽しみ

共に過ごした
心優しい
家族たち。
カナダ留学では、それぞれ
が色とりどりの家族の元で、
十日と短い期間を楽しく過ご
しました。この一日一日が仲
間や、バディ、家族と過ごし
たかけがえのない日々であ
り、毎日が宝物でした。

授業風景



R5



R6



R7



カナダではグループで話す授業が多く、プリントを使って知らなかった単語を学んだりカナダのお金や、地理など日本ではできない授業を受けて、文化の違いを感じました。

その中で現地のバディーとコミュニケーションをとって教えてもらったりバディーとも交流できてとても楽しかったです!!



朝ごはん



カナダの食事



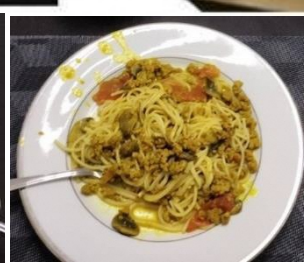
昼ごはん



機内食



郷土料理プーティン



カナダで提供される料理は、量が多く、味が濃いものが多かったです。まさかのコメの登場もありましたが、それも日本のものより細長く、また違った美味しさを味わうことができました。

My best memory



**S
a
y
c
h
e
e
s
e**



三年間を振り返る カナダ短期留学



海外留学参加前と参加後の 変化・成長したこと

令和5年度海外留学 京都府立福知山高等学校附属中学校生徒

私は、このプログラムに参加して、積極的に人と関わろうとする力がついたなと感じます。もともと、あまり自分から人に話しかけるのが得意ではなくて、いつも誰かから話しかけられるのを待ったり、既に仲の良い人とばかり話していました。ですが、実際留学してみて、せっかく留学しているんだから、自分から頑張ってみよう、という気持ちにもなれたし、そもそも、分からないことは自分で人に聞かないといけない状況に身を置くので、そのうち特に、「頑張って聞きに行く」という気持ちではなくなりました。気持ちの面だけでなく、単純に英語力も伸びたと思います。到着した当初は、全然話されている英語が聞き取れなくて、内心焦っていました。元々英語に自信があったつもりなので、本当に焦ったし、「自分二週間やりきれるかな」と少し不安でした。ホームステイ先の5歳の男の子も、ホームステイ初日は何を言っているのか分からなくて、ルームメイトの子と「やばくない？全然分からん」と言っていました。だけど、2日目以降、だんだん英語の速さにも慣れて、コミュニケーションもとれるようになっていきました。英語の文章をとっさに作ったり、単語を思いつくスピードも上がりました。帰りの東京～大阪の国内線の飛行機で、人にぶつかったときに「Excuse me」と、とっさに出てくるくらいには、いつでも英語で返せるように、という緊張感を持っていたので、海外かぶれみたいだけど、内心嬉しかったのを覚えています。

このプログラムは、私が本格的な海外留学をしたいと考えたり、英語で話すことにもっと自信を持つ良いきっかけになりました。留学したことだけでなく、一緒に参加した子たちと仲良くなれたのもすごく良い経験だし、いい思い出です。

令和5年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

私は海外留学を通じて、たくさんの成長を得られる経験をしました。

留学前は、英語はできるけど、日常会話には、まだ不安があることや、自分の意見を伝

えられるか心配だということなどの気持ちを持っていました。留学中は、ネイティブの方との交流を積極的に増やすことを心がけました。初めは、言葉の壁や文化の違いに戸惑う場面が多くありましたが、少しずつ慣れ、異なる背景を持つ人々と協力する力が身についていきました。

語学では、授業の専門用語だけでなく、日常会話・ニュアンスの取り方を学びました。留学先でできた友達との会話を通じて、相手の意図を読み取ろうとする力、聴く力が大きく向上したと感じます。

異文化理解は、初めましての価値観の違いを尊重する、という姿勢へと変わりました。もちろん、母国とは異なる場面がたくさんあり、困惑してしまった部分もありながら、相手の背景を知ること、興味を持ち、知りたいという前向きな気持ちで生活していました。留学後の変化として大きいのは、自信がついたこと、知識をつけたことにより視野が広がったことです。また、国際的な人脈ができたことが、とても嬉しいです。今後にも、この経験を様々な場面で活かしていこうと思います。

令和5年度海外留学 京都府立福知山高等学校附属中学校生徒

私に留学の許可がおりたとき、もちろん喜びや期待はありましたが、一番大きかった感情は不安でした。なぜなら、自分の英語力に自信を持てなかったからです。英語力を確かめる選考はありませんでしたが、簡単な会話ですらスムーズにできるか分からなかったし、同じ中学から留学する仲間の中では、明らかに一番話せなかったのも、10日間頑張りきれかな、こんな私でいいのかな、という気持ちでした。けれども、いざ実際にカナダへ行ってみると、そんな心配はすべて杞憂だったことがわかりました。

カナダの人々は、私が英語を理解できずに困っていると、表現の仕方や話すスピードを変えて、なんとかコミュニケーションをとろうとしてくれました。そのおかげで、英語力の不足によってトラブルにあったり、会話できずに悲しい思いをしたりすることは

ありませんでした。私が何か伝えようとするときも、同じように、あちらからの歩み寄りに助けられていました。とはいえ、いくら相手が理解しようとしてくれるからといって、私がなかなか伝わらないことに拗ねたり、諦めたりしてしまっただけでは会話になりません。だから、つたない英語でも、恥ずかしがらずに発し続けることにしました。その結果、それまでの私からは、想像できないほどの主体性が身につきました。留学の後半では、自分からどんどん話しかけられるようになっていたし、文法や言葉選びは無茶苦茶でも、発する言葉の量に比例して伝わるようになっていきました。

10 日間で英語をペラペラにすることは現実的ではないけれど、英語力を含め、すべての礎となるであろう主体性は、よく伸ばすことができます。主体性さえあれば、あとは知識を増やすだけで、劇的に外国語を話せるようになるはずです。また、未知や困難にも恐れず飛び込めるので、人よりも多く成長するチャンスを得られるでしょう。私はこの留学プログラムに応募して、参加できて、本当に良かったと思っています。

令和5年度海外留学 福知山市立成和中学校生徒

私は海外留学に参加し、参加前に比べ参加後は、英語に対するイメージや海外についての興味がより湧いてくるようになりました。ホームステイすることによって、本場の英語を知ることができます。英語の授業で聞く英語よりも、聞き取りづらいことがあります。そこでもっと「聞き取りたい」、「話してみたい」という気持ちがでてくるでしょう。そして、だんだん相手の話が分かるようになって、英語が楽しくなってきます。

また、自然と海外への興味が高くなると思います。自分も実際、将来海外で働くのもありだと思うくらい海外への興味が高くなりました。自分たちが行った時は日本の文化を留学先の人達にプレゼンテーションするといったものがありました。自分はアニメをプレゼンテーションしたのですが、アニメ含め、他の日本文化も、大変留学先の人たちから好評でした。また、異文化に触れることが、とても多いので日本とは全く違った生活を体験で

きます。休み時間にゲームで遊んだり、食生活が全く違ったり、お風呂もシャワーだけだったり、とにかく驚きの連発でしょう。

この留学は、素晴らしい体験になるだけでなく、自分の将来に大きく関わると思います。高校の進路、また、将来の夢につながれば、このプロジェクトは大成功なんだと思います。このように若いうちに、このような貴重な体験をするのは、これからの人生の大きなアドバンテージになると思います。

令和5年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

僕は、この海外留学を経験する前は、謙虚で慎ましい性格で、自分自身はずっと後ろで見守り、ほとんど前に出ないタイプの人間でした。カナダ留学でも、見慣れない景色、慣れない言語、環境の中に放りこまれて、最初は不安でいっぱいでした。しかし、積極的にフレンドリーな性格のカナダの現地の人々が、場を盛り上げてくれて、自分の堅い英語も、笑顔で受けとめてくれて、自分も次第に気分が晴れて、話せるようになりました。僕は、この留学体験を通して、積極的に話しかけに行く勇氣と人との上手な関わり方を学びました。もし話すのが苦手な人がいたら、特に挑戦した方が良いと思います！

令和6年度海外留学 福知山市立南陵中学校生徒

私は留学へ行く前、積極的な性格ではなく、内気で自分に自信がなかった。でも、「このままじゃだめだ。自分を変えたい。」と思い、留学に参加することにした。私はこの留学で本当にたくさんのことを学ばせてもらった。特に私が成長したと思うところが2つある。

1つ目は、コミュニケーション能力だ。1日1回はバディ全員と話すという目標を持って過ごした。初めはとても緊張したが、積極的に話しかけてくれ、すぐに仲良くなることができた。私は、今までコミュニケーションを取ることを避けてきたが、異文化理解を深めながら、人と関わることの大切さ、楽しさを知ることができた。

2つ目は、自立心だ。私は初めて10日間、家族と離れて生活した。不安だらけだったが、一緒に泊まった友達や、ホストファミリーに協力してもらい、充実した日々を送ることができた。

今回の留学では、英語力だけでなく、人として大きく成長することができた。この経験を無駄にすることなく、私のこれからの未来に活かしていきたい。

令和6年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

私は、海外留学に行く前、全然挑戦ができていなく、この海外留学があることを知り、海外に興味が少しあったので、「やってみよう」と思いました。そして、私は、コミュニケーションも苦手で、新しい友達を作ることは難しかったです。でも、海外留学をし、一緒に行く子たちと、海外でするプレゼンの準備などで、仲良くしてくれて、海外に行っても、その子たちと一緒に頑張り、楽しむことができました。海外では、現地の方に勇気を振り絞り話しかけたり、ホームステイ先の方たちともコミュニケーションをとり一緒に買い物をし、バスケをしたり、積極的にコミュニケーションを取りに行けるようになりました。それから、帰った後、学校でいろんなことに挑戦し、失敗したりするけど、また頑張ろうと海外で経験したことが活かされました。

間違いなく、私は、この海外留学で、挑戦すること、積極的になることが成長でき、すごく楽しかった記憶しかありませんでした。

令和6年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

一年前の夏休みに10日間カナダ短期留学へ行きました。最初は、英語が通じるのか不安でしたが、現地の学校に通ってみると先生もクラスメイトもとても優しく、ゆっくり話をしてもらえて、安心して授業を受けることができました。日本とは違う授業の雰囲気や生徒同士が積極的に意見を言い合う様子がとても印象的でした。

休み時間には、現地の学生たちとバスケットボールなどをする機会がありました。最初はうまく話せなくても、スポーツを通して自然に打ち解けることができ、チームとして協力するうちに、少しずつ英語で会話できるようになりました。言葉が完璧でなくても、気持ちは伝わることを実感しました。

ホームステイ先では、家族と一緒にご飯を食べたり、夜に公園へ出かけたりして、カナダの生活を身近に感じることができました。10日間あっという間でしたが、英語だけでなく、人とのつながりの大切さを学んだ貴重な経験となりました。

令和6年度海外留学 福知山市立南陵中学校生徒

自身の海外留学参加前と参加後の姿や考え方を比べて、私は大きく成長することができたと思う。

海外留学参加前、合格の知らせを受け取ったとき、私は、嬉しい反面、本当に現地の人とコミュニケーションをとれるのか、海外で生活できるのか不安だった。しかし、実際にカナダに行き、現地のバディや先生・ホームステイ先の人たちと喋り、すべて英語の授業やカナダでの買い物など、さまざまな経験を通して、留学前の海外での生活の不安はなくなっていった。もちろん、授業やコミュニケーションの中で、英語が分からなかったり、伝えたいことがうまく伝わらなかったりすることもあったが、日本の先生のを借りたりして、お互いが理解できるまで諦めなかった。

海外留学参加後、私は、カナダでの経験を思い出し、諦めなかったらなんとかなると、英検やそろばん、小さなことにもチャレンジできるようになった。もし、また海外留学にチャレンジできる機会があるのなら、私は迷わずチャレンジするだろう。それくらい、この海外留学は、私を成長させる良い経験となった。

令和7年度海外留学 福知山市立南陵中学校生徒

私はカナダに行ってから成長したことは3つあります。

1つ目は、私は行く前は遠慮して気を遣って、自分の思いを相手に伝えることができませんでした。でも、カナダのバディは、思ったことを言ってくれて、遠慮しない！！リアクションもしてくれました。このことがきっかけで遠慮せず、自分の思いを言葉にして伝えられるようになったことです。

2つ目は、感謝の気持ちを伝えることです。行く前は「当たり前のことをしてもらっているし、、、」という気持ちだったけど、当たり前のことは当たり前ではなく、何にでも「ありがとう」ということは大切と気付いて、今は、何にでも「ありがとう」を言えています。

3つ目は、自信です。「カナダに行けた！」というのもそうだけど、「チャレンジ」ということをカナダで学んだから、今私は、いろいろなことにチャレンジしています。例えば、英検。私は英検の3級を受けました。それが受かったら、それは私の自信になります。だからカナダに行く前と行った後では、自信が強くなっています。

私は、もっと成長したいです。だから私は「カナダに行った。」じゃなくて、「カナダに行ったから、～しよう」という気持ちです。その気持ちを活かして、自分らしさで、もっと成長していきます。

令和7年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

私がこの海外留学を通して成長できたことは、チャレンジ精神です。この海外留学をする前は、優柔不断でチャレンジをしても大丈夫かなとか、無理かもという感情がありました。しかし、カナダへ留学し、自分の知っている英語だけで話したり、アイススケートに挑戦してみたりしました。すごく簡単なことだとは思いますが、私は英語が得意ではないし話せません。更に、アイススケートは、今までしたことがありませんでした。カナダ留学では、今まで体験したことのないようなことばかりでした。しかし、失敗を恐れずに一

生懸命頑張りました。

私は、現在、生徒会役員の副会長へ立候補しました。一年生の時には、そんな勇気がでず出来なかったけど、留学を通してチャレンジすることが一番大切だと思ったので、今度は前向きに頑張りたいと思います。

カナダ留学で更に学んだことは、チャレンジ精神もそうですが、人の温かみです。自分が必死になると、周りも支えようとしてくれるのだと学びました。例えば、私が英語で詰まっていたら笑顔で相づちを打ってくれたり、アイススケートが上手くできなかったら「落ち着いて」とか「ゆっくりゆっくり」とか言ってくれて、とても安心しました。

自分が頑張ることも大切だけど、周りの人が居てくれるからチャレンジできるのだと海外留学で学び、成長しました。

令和7年度海外留学 京都府立福知山高等学校附属中学校生徒

私は、今回の海外留学に、自分を変えて、自分を好きになるために行きました。留学に行く前は、周り自分と比較して劣等感を抱くことが多くありました。そこから、自分に自信が持てないと感じるようになりました。そんな自分をどうにかしたくて、挑戦したのが、留学です。留学に参加すると、英語を上手く話せないことが悔しくて、自分に嫌気がさすこともありました。初めは、ホームステイ先の子どもたちが話している内容さえも、なんとなくでしか理解できなかったり、カナダのアカデミーの先生や学生さんと、深くまで会話できませんでした。それでも私は、英語で楽しく会話できるようになりたいと強く思ったので、ホストファミリーや先生、学生さん達と、失敗を恐れずにコミュニケーションを取ったり、家で英語の文法や単語を勉強したりしました。その結果、ホストファミリー達と一緒にスポーツをしたり、チェスなどをするとき、ルールを教えてもらって、それが理解できました。また、日本について紹介したり、アカデミーでどんなことをしたかについて、楽しみながら伝えることができました。

そうして、相手が何について話しているのかが分かって、相手と楽しみながら会話できた時は、非常に嬉しかったです。このようなちょっとした成長や知らなかったホストファミリーの新たな一面が分かった時の喜びなどから、満足感や自分が成長していると感じることができました。そこから、少しずつ自分に自信が持てるようになってきたと思います。

私は、留学に行くことで英語に対する興味が高まり、英語をもっと話せるようになりたいと思いました。また、留学中に悔しいと思えたことで、英語の勉強を頑張るようになり、目に見えて成長していると実感することができるようになりました。そこからの達成感や新たなことを知ることができた喜びで、少しずつ自分のことが好きになれていると思います。さらに、前の自分よりも自信が持てて、輝けるようになっていると思います。だから私は、留学で自分と正面から向き合うきっかけを作ることができたと思います。そして、ありのままの自分を認める力と向上心を養うことができたと思っています。

留学で得られた経験を活かし、理想の自分に近づけるように精進していきます。

令和7年度海外留学 福知山市立川口中学校生徒

私は、カナダに留学するまで、学校の授業以外で英語を話したり、聞いたりすることがほとんどなく、英語はあまり得意な教科ではありませんでした。でも、何事にもまずは挑戦が大事だと思い、カナダ留学に参加することにしました。

事前学習会や現地で交流するときは、当然日本語は通じないので、自分が知っている文法や単語を使って会話することが楽しかったです。日本では、わざわざ口に出して言わないような些細なことも英語で言ってみたり、リアクションしてみたりして、コミュニケーションを取ることを大事にしました。この留学中に、きっちりした英語の文法ではなくても伝わるんだということに気が付いて、それからはたくさん英語で交流をとるようになりました。

また、自分の力で話した英語が伝わったときは、すごく嬉しかったし、苦手だと思って

いた英語に対して自信ができました。私はこのカナダ留学をきっかけに英語が好きになったし、日本に帰ってきてからも英語をたくさん喋りたいと思うようになりました。帰国後は、生活の中で英語に触れる機会が一段と増えたように思えます。英語だけでなく、自信を持つことや挑戦することの大切さも改めて実感することができ、留学前の自分より成長したと感じています。私は将来、グローバルな職に就きたいと思っているので、今は英語の勉強に力を入れています。

令和7年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

今回のカナダ留学を通して、私は自分の性格や行動の面で大きく成長することができたと感じています。

留学に行く前は、初めて会う人とうまく話せるか不安で、英語を使う場面では特に緊張して、言いたいことがあっても、なかなか口に出せませんでした。「間違えたらどうしよう」や「通じなかったら恥ずかしい」という気持ちが強くて積極的に話すことは苦手でした。でも、ホストファミリーや現地の人たちと接していく中で、少しずつ、たどたどしい英語でも、相手が笑顔できいてくれたり、「Don't worry!」と励ましてくれたりして、完璧ではなくても、自分から話してみようという気持ちになれました。また、友達が積極的にコミュニケーションを取っている姿を見て、私も挑戦しようと思えるようになりました。留学中には、自分から知らない人に声をかけたり、道や値段をたずねたり、ホストファミリーと毎日会話することで、だんだんと初対面の相手とでも自然に話せるようになっていきました。最初は緊張してドキドキしていたのに、気づけば会話を楽しめるくらい余裕ができて、自分でも驚きました。

そして、帰国した後、「挑戦する気持ち」がさらに強くなったことを実感しました。日本に戻ってからは、前ならためらっていたことも積極的に参加したり、自分から意見を言ったりすることができるようになりました。また、初めましての人とでも、前みたいに緊張す

ることなくコミュニケーションがとれるようになりました。これは、カナダで多くの人と関わり、たくさんの経験をしたからこそ、ついた力だと思っています。それをもっと活かして、沢山のことに挑戦していきたいです。

**現地の方とコミュニケーションを
取る中で感じたこと**

令和5年度海外留学 京都共栄学園中学校生徒

留学中、コミュニケーションを通し、感じたことは、意思疎通を図るために大切なことは、「言語能力」ではなく、「積極的に話しかける姿勢」だ、ということです。

実際に、最初は、文法や単語を間違えるのが怖く、話すのを躊躇してしまい、あまりたくさんのコミュニケーションは取れませんでした。ですが、現地の方にアドバイスをもらい、ミスを怖がらず、話しかけると、思っていた何倍もフレンドリーで、ゆっくり聞き返してくれたり、ジェスチャーなどで、コミュニケーションを取ろうとしてくれる人が多く、「積極的に話しかける姿勢」が大切だと感じました。

また、そうして、コミュニケーションを取っていく中で、お互いの文化の「違い」というものも感じることができました。時間の使い方や会話のテンポ、気持ちの伝え方や、ジェスチャーなど、日本では感じられない違いを感じ、質問しながら話すことで、お互いの文化に興味を持ち、「違い」を通し、文化の理解が深まっていくのを感じました。

10 日間の短い期間でしたが、留学の中で、考えたことや感じたことは、これからどのような環境においても大切だと思うので、これからも失敗を恐れず挑戦していきたいです。

令和5年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

現地の方々と交流する中で、「自分の思いは遠慮せずに伝える」ということが大切だと気づき、意識して生活しました。

日本では、はっきり言わない、周りに合わせておく、みたいな風潮がなんとなくあるけど、現地では「とにかくはっきり言う」ことが大切になってきます。特に、ホームステイ先でそれを実感しました。昼に作ってくれる弁当に入っていたものが、口に合わない時があり、伝えるべきなのか悩んでいたけど、一緒に行った仲間のアドバイスなどを受けて伝えてみると、快く受け入れてくれました。 また、ホームステイ先で体調を崩

してしまった時も、どう対処してほしいかなどを聞いてくれて、対処してくれてありがたかったし、自分の状態や思いを、率直に遠慮せず伝えることの大切さを、身をもって感じました。

最初はすごく遠慮するし、どんな反応が返ってくるか不安だけど、現地の方々は、本当に気軽に快く聞いてくれます。勇気を出して一歩踏み出して、自分の思いを言うてみるこ
とが交流する中で大切だと思います。

令和5年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

私は、今回の短期留学が、人生で初めての海外でした。正直、英語も話せるわけじゃないし、最初は不安でいっぱいでした。だけど、カナダへの留学を経験した今、本当に行つてよかったと心から思います。

カナダでは、ホームステイの生活だったので、会話は全て英語。やばいと思った私は、出川イングリッシュで挑戦しました。そこで学んだことがあります。「文法がすべてじゃない」、文法が綺麗で、スラスラ話せるに越したことはありませんが、笑顔で話せば、ジェスチャーを取り入れれば、知っている単語を並べれば、伝わるんです！ 私の強みである誰とでも笑顔で元気に話せるところを武器にして、現地では楽しく、コミュニケーションを取っていました。みんなが普段している恋バナ、マリオカートなど、現地の人も大好きでした♥ カナダでできた友達とは、今でも連絡を取り合い、日本で再会したりなど、国境を越えた繋がりができました。

日本、京都、福知山、狭い世界で生きてきた私にとって、カナダに行ったことは、世界の広さを知るきっかけになりました。少しの勇気が、自分の人生での大きな財産に変わったと思っています。日常会話がすべて英語、食事も初めて見るものばかり、日本での常識が覆される、そんな非日常的な数日間を皆さんにも、ぜひ体験してほしいなと思います。

最後にみんなにメッセージを送ります。

挑戦を恐れないで！日本から一度出してみて！楽しいから！新しい発見があるから！新しい自分に出会えるから！

きっと人生で一生大切にしたいと思える仲間に出会って、忘れられない体験がたくさんできると思います。

令和5年度海外留学 福知山市立三和中学校生徒

僕は、カナダに行って現地の方々とコミュニケーションを取る中で、言語は違っても、通じ合えるということを感じました。

僕がカナダに訪れた時には、少し話せる程度で、現地の方々と簡単な会話をしたりしました。その話の中でも、分からない単語、聞き取れないことが多々ありました。また、言いたいことをうまく言い表せず、伝えられないこともありました。しかし、現地の滞在時間が長くなるにつれて、日頃の会話の中にも笑顔が増え、お互いの趣味を話したり、一緒にゲームをしたりすることが増えていきました。僕が、伝えたいことを、ジェスチャーなどを用いて話そうとしていると、話を聞いてくれる人も、理解しようとしてくれる気持ちがとても感じられました。また、正しくない英語であっても、優しく、相づちを打ちながら、聞いてくれたことも嬉しく感じました。コミュニケーションを取ることによって、相手のことを知れたり、また、自分のことを知ってもらえる、とてもいい機会でした。

さらに、英語で話そうとしたことによって、自身の英語力の向上、意欲が高まったことによって、英語や海外のことに、より興味を持つことができました。貴重な経験をすることができたので、今後も、その経験を活かして、様々なことに取り組んでいきたいです。

令和5年度海外留学 福知山市立南陵中学校生徒

私は留学中、実際に現地の方とコミュニケーションを取る中で、ちゃんと英語を話せているのか、相手に伝わっているのかなど、いろいろな不安が積もりました。

しかし、現地の方は「ゆっくりでいいよ」というような優しい表情で、私の話を聞いてくださり、一気に不安な気持ちが解けたような気がしました。

また、現地の方も、私たちと交流しようと、スマホゲームのやり方を教えてくれて、一緒に遊んだりしました。他にも、ホームステイ先の家族が、私たちが知っている映画を見ようと提案してくださり、みんなでハリーポッターを観ました。

このように、現地の方々も、私たちが楽しめるようにいろんなことをしてくださり、より英語を極めることだけではなく、現地の方とコミュニケーションを取ることができました。

令和5年度海外留学 福知山市立南陵中学校生徒

現地の方々とのコミュニケーションを取るときに感じたことということで、僕は主に3つのことを感じていました。

1つ目は、やはり慣れるまでは難しく、緊張するな、ということです。海外では、初めましての人、さらには、普段自分が使う言葉とは違う言語。とにかく緊張しました。

2つ目は、海外の方々は、とにかく皆さん明るく、コミュニケーション力が高いな、と感じました。ふと公園で会っただけの人に、名前とか聞くのが当たり前だったんです。ただひたすらコミュニケーション力高いな！と思ったのを覚えています。

3つ目は、とにかく楽しい！！ということです。慣れない言葉、環境、初めましての人。しかも海外の。不安だし、緊張します。でも、全ての言葉が分からないのではないからこそ、分かる言葉が出てきたり、相手が笑うと、自然に笑って楽しめるんです！それが一番印象に残っています。

日本ではなく本場で話すというのは全く違います。でもその分すごく楽しく、貴重な経験をさせていただきました！

令和5年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

私の海外留学は、たくさんの人の優しさに触れることができた十日間でした。

特に印象に残っていることは、私がカナダのスーパーのレジで、やり方が分からずに困っていた時、後ろに並んでいた人が、親切に教えてくださったことです。慣れない場所で日本語が使えない場面で、すごく緊張していた私にとって、少し緊張がほぐれるような、人の温かさを実感できた瞬間でした。

ホストファミリーや現地の友達と過ごす中でも、上手く英語で伝えられなかったことはたくさんありました。しかし、現地の方が一生懸命、聞こうとしてくださったり、私のペースに合わせて、話してくださったりしました。仲間の積極的な姿勢が、刺激になったこともあり、気づけば、自ら進んで英語で話しかけている私がいることに、とてもワクワクしたのを覚えています。英語で話しかけることは、とても緊張することですが、話してみると、想像の何倍以上もの楽しさが待っていました。

私は、この留学を通して、緊張を乗り越えて挑戦するからこそ、想像以上の楽しさや発見に出会えるのだということを学びました。高校生になり、夢に向けて努力している途中ですが、積極的に挑戦してるかどうかは、今でも意識して行動するようにしています。

令和6年度海外留学 京都府立福知山高等学校附属中学校生徒

自分は、英語を上手に話せる人ではないので、現地でコミュニケーションを取れるか、とても心配だった。

しかし、現地の人々は、たくさん質問してくれて、理解できない英語は、分かりやすく

説明してくれた。また、現地のことやものについて詳しく話してくれた。そのため、現地に行く前の不安はなくなり、楽しく会話することができた。ホストファミリーや学校の方々だけでなく、お店の人たちも、とても親切に対応してくれた。

海外留学を終えて、もっと海外のいろんなところへ行って、いろんな人と話がしたいと思った。だから、これからもっと英語や他の外国語の勉強を頑張ろうと思った。

令和6年度海外留学 福知山市立大江中学校生徒

自分が現地の方々とコミュニケーションを取る中で感じたことは、最初はどうやって会話を始めたら良いのかが分からなくて、あんまり話せなかったです。でも、現地の方からたくさん話しかけてくれて、自分でもちょっとずつだったけど、これまで習った言葉や、話し方を思い出しながら、自分で考えて話していけるようになりました。そして、会話をする中で、どんな時でも、積極的に話しかけてくれたり、リアクションをたくさん取ってくれたりして、話しやすい雰囲気をもっと作ってくれたおかげで、自分も話しやすくなって、とても嬉しかったです。

また、自分からコミュニケーションを取ることで、相手もしっかり話してくれるし、自分の言葉で会話できたという達成感とか、また話したいとか、もっと話したいというプラスなことで、いっぱいになりました。

会話をする中で、自分自身にも積極性や、自分からコミュニケーションを取ることができたり、自分自身の成長につながるようなことが増えて、実際に、たくさん話してみて、とても楽しかった思い出がたくさんありました。今回行って学んだことや、成長したことなどを今後の生活や、高校、社会に役立てていけるようにしたいです。

令和6年度海外留学 福知山市立六人部中学校生徒

僕が、カナダへの海外留学で、現地の方々とコミュニケーションをとる中で感じたことがあります。それは、実際にカナダへ行き、現地の人たちと話してみたら、とてもフレンドリーだったことです。例えば、アイスクリーム屋で、注文に迷っていた時に、後ろに並んでいたバディが「このメニューおすすめだよ」と優しく教えてくれました。英語での注文に困っていた僕は、その一言でとても安心できました。

もちろん英語を完璧に話すことはできませんでした。でも、ゆっくり話してくれたり、簡単な言い回しに変えてくれたりして、相手が「伝えよう」としてくれる気持ちが伝わってきました。僕も、英語が話せないなりに、ジェスチャーや自分が分かる単語を使いながら話していると、相手の人が笑顔でうなずいてくれて、とても嬉しくなりました。

特に印象に残ったのは、カナダの人たちは、相手の意見をとても大切にしてくれるところです。たとえ僕が、うまく言葉にできなくても、最後まで話を聞こうとしてくれる姿勢がありました。日本とは少し違うその雰囲気、「コミュニケーションって、言葉の上手さだけじゃないんだ」と感じました。

今回の経験で、僕は、知らない国の人と話すことの楽しさに気づきました。英語をもっと話せるようになって、またカナダや他の国の人たちともコミュニケーションを取りたいと思いました。

令和6年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

海外留学に参加する前は、あまり海外に興味がなく、英語もあまり好きではありませんでした。母の勧めで参加した海外留学でしたが、一緒に行く仲間や事前学習を通して、海外に興味を持ったり、現地の方々と話すのがすごく楽しみになりました。

実際に行ってみると、日本とは全然違う地形や気候でした。道路が広く緑が多い、日本より涼しく、日の入りも夜9時頃でした。とにかく自然豊かでした。

現地の方々とコミュニケーションを取ってみて感じたことは、自分が思っているより、会話のスピードが早かったり、発音が良すぎて、何を言ってるのか分かりませんでした。でも、何度も言ってくれたり、別の意味の文を言ってくれたり、現地の方々がすごく温かかったです。

海外留学プログラムの中で一番印象に残っていることは、最終日のプレゼンと福知山音頭、そして現地の方々とのお別れの時です。本当は10日間だったけど、日本に台風が接近する関係で、1日早く帰ることになりました。突然すぎて、心の準備が全然できていなくて、すごく悲しかったです。でも、気持ちを入れ替えて、プレゼンをしました。僕たちの班は「福知山の紹介したい場所」でした。やっぱり練習の時より緊張して、英語が出てこなかったりしたけど、できる精一杯のことをやり切りました。福知山音頭は、現地の方々に、英語や身振り手振りを使って、1からドッコイセ音頭を一緒に踊りました。やっぱり教えるのは難しいけど、分かってくれて一緒に踊れた時に、達成感を感じることができました。空港に行くまでの約20分間、バスの中で現地の方々と話したり、みんなで歌ったり、恋が芽生えていたり、本当に楽しい時間でした。空港の入り口前で、現地の方々と握手をしたり、ハグをしたり、お世話になった方々に感謝をして別れました。本当に悲しかったけど、またいつか会いたいです。

海外留学に参加して、短い9日間だったけど、すごく充実した時間でした。異文化に触れたり、初めて出会う現地の方々と仲良くなったり、英語をしっかりと勉強したりできました。海外留学を通して、英語をもっと好きになれたし、英語関係の仕事に就きたいという将来の夢を持つことができました。外国に行って、勉強できる機会は、すごく少ないと思います。僕は、この貴重な経験を、今後の自分につなげていきます。このような短期留学をしてくださった福知山市教育委員会、市役所の皆様、本当にありがとうございました。

令和6年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

私は、カナダ留学で、バンクーバーなどに行った際、公園や街、お店などたくさんところで、アジア系の人々、例えば日本人や韓国人、中国人が多くいる環境に行きました。

はじめ、私は、欧米では、アジア系の人の差別があるというイメージを抱いていて、移民大国のカナダでも、うまく受け入れてもらえるのか不安でした。しかし、実際に現地で体験すると、そのイメージは、必ずしも当てはまらなと実感しました。それは、ホストファミリーに公園に連れて行ったもらった時で、現地の子供たちが、「一緒にバスケットボールをしよう」と言ってくれて、バスケットをしました。ホストファミリーは、4日間ほど、公園に連れて行ってくれたのですが、いつも、その子供たちはいて、毎日バスケットをしました。私はその4日間、私たちが誰なのか、どの国の人なのかを、誰も聞いてこなかったことに驚きました。年齢も、国籍も知らないのに、普通にバスケットをして、ゴールが決まると、ハイタッチをしました。こうした経験を通じて、私は、カナダは文化や言語を超えて、人々が楽しく交流できる場所なんだと知りました。

他にも、私たちにとても優しく、親切にしてくれたホストファミリーは中国の方々でした。中国人だと分かった時、私は少し悪いうわさを想像して、怖くなりました。でも、実際に会話をしてみると、とても優しい人たちで、この経験から、うわさや一部の人のだけを見るのではなくて、実際に、こうして異文化に触れ、交流して、自分で確かめることが大切だと気がつきました。

カナダ留学で、現地の方々とコミュニケーションを取る中で、私が感じたことは、うわさや一部の情報を信じるより、実際に自分の目で確かめることが大切だということです。そうすることで、“実はこうだった”とか、私が体験した経験のように、家にいるだけでは、見つけられなかったことを見つけることができる、と考えました。

令和6年度海外留学 福知山市立南陵中学校生徒

私が、カナダにいる時に、現地の人とコミュニケーションを取る中で感じたことは、言葉を上手に話そうとすることよりも、伝えようとする気持ちが大切なことです。

最初は、上手に話そうとするあまり、話しかけてもらっても、答えるまでに時間がかかって焦って、自分の言いたいことが言えなくて、話が続かなかったことが多くありました。そんな時、みんなは上手にコミュニケーションを取っているのに、私は、全然うまくできないと焦りや不安を感じていました。だけど、ホストファミリーやバディたちと話していくうちに、上手に話せなくても、伝えようとする気持ちが大切だと気づきました。例えば、ホストマザーは夕食の時間に「今日は何をしたの?」「何を学んだの?」とかたくさん質問をしてくれて、私が言葉に詰まっても、最後まで聞いてくれて、表情やジェスチャーなどを使って、理解してくれようとしてくれました。そして、私は、自分から気持ちを伝えようとする姿勢が大切だと気づきました。何て言ったらいいか分からない時も、表情やジェスチャーを使って反応したり、短い言葉だけでも伝えたりすることで、相手はもっと話そうとしてくれることにも気づきました。

この経験を通して、私は、完璧とか上手にしようとするのではなく、「伝えたい」という気持ちが大切だと学びました。留学から少し経った今でも、人と関わる中で自分の思いを伝えることを意識しています。

令和7年度海外留学 福知山市立六人部中学校生徒

まず、カナダに行く前は、コミュニケーションを取る上で大切なことは、とにかく英語が話せないとコミュニケーションは取れないと思っていました。だから、当日までに、たくさん英語を勉強したり、聞けるように練習したりしました。

しかし、実際現地に行ってみると、何を言っているのか全然わからなかったし、何を言ったらいいか分からなくて、正直とても焦りました。でも2日目の日からとても話せ

るようになりました。それは、緊張が解けたというのものもあるけれど、一番大きかったのは、ジェスチャーや表情、知っている単語を繋げてみて、ジェスチャーと繋ぎ合わせてみる、そうすると、だんだんコミュニケーションが取れるようになりました。それから、先生の力を借りながら、バディの人と積極的に話して、だんだん会話ができるようになって、とても楽しかったです。そこで思いました。「大切なのは、言葉が通じるとかではなく、気持ちが通じるかどうか。気持ちはどこでも一緒なんだ」と。

このことを学んで帰国した今、前よりも学校生活で、たくさんの人、今まであまり話をしたことがない人とも、たくさん話せました。

今回の留学で、とても貴重な体験をしました。このことをずっと心の中に残しておいて、これから先も、人と関わる上でコミュニケーションを大切にしていきたいです。

令和7年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

現地の方々とコミュニケーションを取る中で、私が感じたことは2つあります。

1つ目は、気軽に話せることです。日本の多くの人や私は、一言目は声をかけるのが緊張したり、反応してくれるか不安で、声をかけるのが難しいです。でも、現地の方々は、自分から声をかけてくれます。なので、私も話が長く続くように、たくさん話題を話し、楽しく話せました。

2つ目は表現力です。現地のバディたちは、色々なジェスチャーをしたり、笑顔で話したり、表現が豊かな人がとても多いです。だから、初めてバディと話すときは、私の方が緊張して、顔が硬くなってしまってたけど、ずーっと笑ってくれてたので、初めて話す感じじゃなかったです。

このように、日本から離れて、カナダに行ってみると、話しやすく、楽しい会話ができました。日本に帰っても、カナダで身に着けた表現力を日本でも使い、コミュニケーションを大切にしていきます。

令和7年度海外留学 福知山市立南陵中学校生徒

私は、留学を通して、たくさんのことに気づき、成長することができました。

まず1つ目は、情報だけに目を向けるのはもったいない、ということです。留学に行く前は、カナダの人は、こんな人でこんなことをするとか、スマホで調べたりしていました。でも、それは、実際に行かないと分からないし、自分の目で見ること、感じるものが大切だと気付きました。情報は、単なる狭い空間で、もっと広いところがあると分かりました。

2つ目は、意見を伝えることの大切さです。私は、留学前は、こう言ったらこう思われるかな、とか考えて伝えることができなかったりしました。それが留学の初日にもなってしまうと、カナダで友達つくろうと思ってたけど無理かな、と思ってしまいました。でも、それはもったいない、チャレンジしよう決めて、次の日、話しかけました。すると、逆に、たくさん話しかけてくれて、仲良くなることができました。

この2つは、どちらもコミュニケーションを取らないと気付けないことだし、分からないことだと思います。なので、私はこの留学にとっても感謝しています。言語が違って、お互いを理解しようとする、できるのがコミュニケーションなんだなと思いました。そして、もっと英語が好きになりました。

令和7年度海外留学 福知山市立川口中学校生徒

僕はこの夏初めての海外に行きました。最初は、なかなか慣れずに過ごしていましたが、徐々に「あんな質問をしたいな」や、「こんな話したいな」という考えが出てきました。僕がコミュニケーションを取る中で、大事だなと感じたのは、やってみよう、と思うことです。例えば、授業の時、最初は間違っていたらどうしようと思うと、発表できませんでした。しかし、間違っていたら、どこが違ったのか考え直すことができたし、合っていれば嬉しい、と良いことしかありませんでした。それに気づくと、現地の方々との話も楽しく

なって、次第にリスニング能力もついてきたと感じました。これは日本でも同じだと、家に帰ってきてから思いました。カナダでも、日本でも、間違い・正解関係なくやってみよう、と思うことが大切だと気づくことができました。これは初めての人と、そして言語が違うからこそ、気づくことができたことです。「やってみよう」の気持ちを忘れないように、これからの学校生活を過ごしていきたいです。

また、「伝えよう」という気持ちも大切だと感じました。バディに浴衣を着せてあげる時に、英語が分からなくても、ジェスチャーなどを使うことで、伝わりやすくなりました。伝えたいという気持ちがあることで、相手も分かろうとしてくれるので、伝わったのだと思います。

令和7年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

私は、現地の方と10日間コミュニケーションを取って感じたことは、言語が異なっても、完璧な英語じゃなくても、通じ合えると感じました。私が伝えたいことがあった時、自分の分かる単語を並べて言うと、「OK!」と言ってくれたり、分からなくて困っていると、翻訳機を出して、会話してくれたり、とても優しく接してくれて、心強かったです。また、少し、日本語で話してくれて、分かりやすく伝えてくれたり、ジェスチャーをしてくれたり、とても分かりやすかったです。また、楽しい時や、面白い時、帰国前のお別れで悲しい時、いつも一緒に笑ったり、泣いたりして、言語が異なっても、やっぱり分かり合えるなと思いました。でも、どうしても英語でしか説明できない時、ホストファミリーやバディは、ペラペラの英語を使って、何も分からないことがたくさんあったので、また、たくさん英語を勉強して、私もペラペラと話せる状態で、またカナダに行きたいと思いました。

令和7年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

私が、現地の方々とコミュニケーションを取る時に感じたことは主に2つあります。

1つ目は、こちら側の話を進んで聞いてくれたことです。私が、現地でなかなか英語を聞き取れなかった時に、聞き返したら、ゆっくり喋って返してくれたり、複数回聞き返しても、優しく何回でも答えてくれて、すごく安心したのを覚えています。そのおかげで、最後は現地の方々と安心して話すことができました。

2つ目は、上手に英語が話せなくても、伝えることができたことです。私はあまり英語が得意ではなく、上手にコミュニケーションを取れる自信がなかったのですが、上手に伝わらなかった時に、身振り手振りを使うと分かってくれたり、「これで合ってる？」と確認してくれたりしたので、円滑とはいかなくても、コミュニケーションが取れて、それがすごく楽しかったです。

私は、今回の留学で、引っ込み思案にならずに、積極的に理解してもらおうとすることで、相手も理解しようとしてくれたので、自ら挑戦することが大事だと感じました。

**海外留学プログラムの中で
1 番印象に残っていること**

令和5年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

一番印象に残っていることは、日本と海外の文化の違いです。

例えば、「家の中は土足」、「お風呂はシャワーのみ」ということを知ってはいたけど、実際に、その違いを体験することができました。毎日洗濯をしないことにも驚きましたが、自分の言葉で伝えて、洗濯ができた時は嬉しかったです。また、ドリームキャッチャー作りを通して、日本では良いイメージが強い「夢」が、カナダではどちらかと言えばマイナスイメージがあることも分かりました。だから、ドリームキャッチャーは、夜の間に捕まえた悪夢を、朝日の光で焼き払う意味があると学びました。

現地の学校での授業も印象に残っています。日本の英語の授業とは比べ物にならないぐらいの量の英文を読みましたが、先生方が明るくて楽しかったです。見たことない単語がたくさんあるし、学校で習った文法事項が、難しい表現になっていたりして、自力で英文を読むのは、すごく大変でした。だから、私たちが、今学んでいる英語の知識は、実際に使われている言葉のほんの一部に過ぎないんだと感じました。

令和5年度海外留学 京都府立福知山高等学校附属中学校生徒

私が留学のプログラムの中で一番印象に残っているのは、自分の思いを伝えようか迷った時の経験です。

私は食の好き嫌いが激しいほうで、現地のホストマザーが用意してくれた昼食が、口に合わず、食べられませんでした。その時に、アドバイザーさんとお話しする機会があり、そのことについて相談してみると、「いやな思いをされているまま、食事を提供するほうが嫌だと思うよ」と助言をしてくださいました。その時は、美味しくないと率直に伝えることで、ホストマザーを悲しませてしまうのではないかと、日本では出されたものは、食べきるのがマナーだから、失礼に値するのではないかと等の心配をしていましたが、アドバイザーさんの言葉のおかげで伝える勇気が出ました。

この経験は、日本のマナーとは別の考え方が存在していることを知り、視野を広げてくれる貴重なものでした。アドバイザーの方の言葉を、一文字も忘れずに2年半もの間、覚えているくらい、私にとって、この留学は色濃いものでした。またとない経験をさせていただいた中学2年生の夏休みは、私のかけがえのない時間であり、忘れられないものです。

令和5年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

私がカナダでの留学で、一番印象に残っていることは、ホームステイです。初めての海外生活で、英語での会話や現地の生活に慣れるか不安もありましたが、新しい環境の中で多くのことを学びたいという気持ちで出発しました。

私のホストファミリーには、7歳、3歳、1歳のホストブラザーと、5歳のホストシスターがいました。家に着いた時、みんなが笑顔で迎えてくれたのを今でも覚えています。ホストマザーは、とても優しく、毎日送迎してもらっていた車の中で、「今日はどうだった?」、「何をしたの?」と声をかけてくれました。最初はうまく答えられず、単語を並べるだけになってしまうこともありましたが、少しずつ伝わり、会話を続けることが楽しくなっていました。

印象に残っているのは、夕方の犬の散歩の時間です。毎日子どもたちが「Let's go for a walk!」と誘ってくれ、散歩に連れて行ってもらいました。散歩中に公園に寄って、ブランコで遊んだり、鬼ごっこをしたりして、ホストブラザーやホストシスターと仲を深めることができました。最初は聞き取れなかった英語も、子どもたちがゆっくり話してくれたおかげで、理解できるようになり、英語でのやり取りに自信ができました。遊びを通じて自然に英語を使えたことは、大きな学びになりました。

一日ホストファミリーと過ごす日には、ピクニックに連れて行ってもらったり、カナダの100年前の街並みが再現されたミュージアムを訪れたりしました。また、ホストファミリーの知り合いの消防士さんに会い、消防車に乗せてもらうという貴重な体験もさせてもら

いました。その日は、たくさんの人と関わり、カナダの人々の温かさと親しみやすさを感じました。

このホームステイを通じて学んだことは、英語を使うことへの恐れよりも、「伝えようとする気持ち」が大切だということです。間違えても構わないから、自分から行動することが、新しい繋がりを生むことを実感しました。また、英語は、単なる勉強科目でなく、人と人をつなぐ手段であることを改めて感じました。

カナダでの留学は、私にとって、将来に繋がる大切な経験になりました。これからも、英語の学習を続け、世界のさまざまな人々と交流できるようになりたいです。カナダでの出会いや学びを大切にしながら、自分の可能性をもっと広げていきたいと思います。

令和6年度海外留学 福知山市立成和中学校生徒

私は、海外留学の中で、一番印象に残っていることは、校外学習をしたことです。

校外学習では、バンクーバーに行って、アトラクションみたいな感じで、カナダの自然や都市の景観を楽しみました。初めての経験で、風が吹いたり、椅子が動いたりして、とても楽しくカナダの街並みを知ることができました。初めて大きな船にも乗って、初めての経験がたくさんできました。また、蒸気時計を見て、蒸気を出しながらメロディを奏でていて、とてもびっくりしました。バンクーバーの建物は、とても高く、綺麗でした。お店の中に入ると、カラフルなお花や可愛いキーホルダー、カナダで有名な食べ物など、たくさんあって、見ているだけでもすごく楽しかったです。現地の方と行動して、一緒にお昼ご飯を食べたり、遊んだりして、より仲が深まりました。

バンクーバーでの一日を通して、初めてのことがたくさんできたり、現地の方との仲も深まり、すごく濃い思い出になったので、一番印象に残りました。

令和6年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

僕が一番印象に残っているのは、食べ物です。日本では、白ご飯やお味噌汁とメインのおかず等ですが、カナダでは、肉が白ご飯の役割をしていたのが心に残りました。 また、カナダでは、お味噌汁がなく、毎晩ハンバーガーやパスタ等、いかにも海外の方が、よく食べられるようなご飯でした。また、カナダのスイカは、とても美味しくて何個でも食べられるような、そんな味でした。

令和6年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

私が留学プログラムの中で、一番印象に残っていることは、ホストファミリーが帰国する日の朝、お店へ連れて行ってくれたことです。

帰国する前々日に、お土産を買いに行きたい、とホストファミリーにお願いをし、帰国前日に、買い物に行く予定を立てました。しかし、天気の都合で、予定よりも一日早く帰国することになってしまいました。お土産買えないな、と思っていると、「いつもより早く家を出て、お土産買いに行こう」と朝早いのに、どこか開いているお店がないか、車を走らせてくれました。そして、開いていたスーパーで、無事、お土産を買うことができました。学校に行くまでのあまり長くはない時間だったけど、自分が買いたかったものを買え、家族や友達にも買うことができました。私が何よりも嬉しかったことは、お土産が買えたことではなく、ホストファミリーの、お土産を買いに行かせてあげよう、という温かさに触れられたことです。お店に行けなくなったね、残念だったね、となってもいいところを、お土産買いに行くよ、と言い、連れて行ってくれたことがとても嬉しかったです。その他にも、帰国後にメールをくれたり、分からないことは丁寧に教えてくれたりしました。人の温かさや優しさは世界共通なんだと感じた留学でした。

令和6年度海外留学 京都府立福知山高等学校附属中学校生徒

私が海外留学プログラムの中で、一番印象に残っているのは、ホストファミリーと過ごした時間です。初めて家に到着した時は、緊張で胸がいっぱいだったけど、「Welcome home!」と迎えてくれた笑顔のおかげで、不安はすぐに楽しさへと変わりました。

一番思い出深いのは、ホストマザーと一緒に、スーパーへ買い物へ行ったことです。棚に並ぶ見慣れない食品や、巨大サイズのシリアルや牛乳に驚きながら、一つ一つ説明してくれるホストマザーの優しさが嬉しかったです。また、ショッピングモールに行った日は、一緒にお土産や雑貨を見たりと、まるで、家族で休日を過ごしているかのように楽しかったです。

ホストマザーが作ってくれた料理も、一つ一つがとても印象的でした。朝は、シリアルやワッフル、夜は、ハンバーガーなど、日本とは大きく違い、とてもいい経験になりました。

ホストファミリーと過ごした時間は、本当の家族のように楽しく、一生の思い出になりました。ホストファミリーといつか会える日を楽しみにしています。

令和6年度海外留学 福知山市立三和中学校生徒

僕は、この海外留学で、様々なことを学びました。

海外へ行く前、他のメンバーとの事前授業があり、全員は和気あいあいとした感じで、でも、どこか不安も交えながら過ごしていたと思います。

1日目、行きの飛行機で、すごく後悔したことがあります。それが、「水分が足りない」ことです。そう、乗る前に、全て一度捨ててから、10時間のフライトにのぞむため、途中足りず、カナダに着いて、しばらく脱水で、その日は息が切れ、バディともあまり話せず寝ました。

イメージに残ったのは、2日目と6日目でした。2日目は、この留学で、ずっと一緒に

いてくれたマックスに会い、「音楽」という共通の話題で、しばらく話し続けていました。この日、びっくりしたのが、「りょ」と言ってもらえず、「りょうえい」が「リオン」になったことです。

6日目は、バディさんやみんなと買い物に行ったことです。買い物自体は、できたんですが、意外に、日本のものが多かったことです。特にお菓子コーナーで、めっちゃでっかいドーナツとかありそう、と思ったら「YUKIMI」の文字で、え～、となりました。

僕はこの8日間、「話すこと」に着目して、“自分だけでも”という思いで、何でもチャレンジしました。自ら声出して、笑って、写真撮って、英語で話そう！とバディにお願いして、よく頑張ったと思います。でも、どれだけやっても、「何か駄目だな」、「足りなかったな」と今も思っているほど後悔がついてきます。2日早まったとはいえ、8日もあって、「まだ」の気持ちが終わらない。だから、絶対次の子たちには、なってほしくない。残念ながら、次の子に、知っている子とか、僕を知っている子は、いないだろうけど、どんどん頑張ってチャレンジをしてほしい！と僕は思っています。

短かったけど、学びを得て、大切に、あっという間に過ぎ去った尊い8日間、僕にとってとても大事な思い出でした。

令和7年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

海外留学プログラムの中で、一番印象に残っていることは、食文化です。留学中は、ホームステイ先や、学校でのお弁当、外出した時にご飯を食べたりなど、たくさんカナダの食べ物を食べました。カナダは、日本と違い、味付けが濃いものが多く、最初は慣れなかったけど、美味しかったです。また、学校でのお弁当では、パスタやサンドイッチなど、日本では見慣れないものも多く、楽しかったです。中でも、一番驚いたことは、お弁当にお菓子がついてきたことです。私のホームステイ先は、毎日お菓子を入れてくれました。

このように、日本とは違うところがたくさんあり、毎日が新鮮でした。食文化以外にも、

道路や学校、人も日本とは違い、文化の違いを体験することができました。新たな文化や考え方を知ることで、自分の考えの幅も広げることができました。

令和7年度海外留学 福知山市立日新中学校生徒

私が海外留学プログラムの中で、一番記憶に残っているのは、ホストファミリーと過ごした休日です。

その日は、家から少し離れた場所にある教会に行きました。日曜日だったので、教会に行く日でした。日本語の教会に連れて行ってもらいました。そこに行くまで、高速道路で行くのにも関わらず、窓が全開で、風がすごく強くて、友達みんなで大爆笑しました。教会には初めて行きました。キリスト教のお話を聞いたり、歌を歌ったりして、なかなか経験できないことなので嬉しかったです。その後は、ドーナツを買いに行ったり、みんなで車の中で歌ったりして、楽しかったです。そして、友達のホストファミリーの家に行きました。友達のホストファミリーの家で、ご飯を食べたり、買ったドーナツを食べたりしました。庭で水遊びもしました。その後に、タウンセンターパークという、とても大きな公園に行きました。ビーチバレーができる場所があって、そこでビーチバレーをしました。野生のクマに出会ったりもしました。すると、現地の方が声をかけてくれて、一緒に遊びました。バディ以外の現地の方と話すのは初めてで、難しいこともあったけど楽しかったし嬉しかったです。

カナダは、たくさんの国の方がいました。一緒に遊んだ現地の人、韓国出身の方が多かったです。バディの中にも、アジア系の方がいたりしました。私のホストマザーもシンガポール出身の方でした。

現地の方は、積極的に話しかけてくれる人が多い印象でした。ホストマザーと夜ご飯の時、今日の出来事や明日の出来事について、たくさん話しました。スーパーに行った時も、何のラーメンを買いえばいいか悩んでいると、隣にいたおじさんが「これは辛いよ」

とか「これは麺が太いよ」とか色々教えてくれました。また、聞き取れずに困っていると、ゆっくり話してくれたり、ジェスチャーをしたりして、私たちに伝えようとしてくれました。そのおかげで、うまく理解することができたし、私たちも一生懸命伝えようと思って、頑張ることができました。

バディに日本のことを伝えたり、自分のことを伝えたりすると、全部喜んでくれて、とても嬉しかったです。バディも、私たちのことをたくさん知ろうとしてくれたし、バディたちのことをたくさん教えてくれたのも、すごく嬉しかったです。

カナダに行って、相手のことを一生懸命理解しようとする気持ちと、自分のことをたくさん伝えようという気持ちが、とても成長しました。移動のバスの時も、授業中も全部、新しいことの発見ばかりで、毎日が充実していて、とても楽しかったです。カナダで過ごした日々は、私の宝物になりました。

令和7年度海外留学 京都共栄学園中学校生徒

私が、海外留学プログラムの中で、一番印象に残っているのは、日本と海外での食文化の違いだ。

まず一日目の夜ご飯では、どんなものが出るのか、ワクワクしていたが、あまりお腹が空いていなかった。なので、そのことを伝えと、出てきたのはバナナ一本、私はそれに驚き、渋々それを食べざるを得なかった。

こういった、「あまり食べられない」という時に出てくるものは、日本では、少なくとも米やパンは出てくるだろう。

このように、日本と外国の食の文化には、大きな違いがあるのだと知った。きっと、私がお腹がとても空いていると言え、ものすごい量のパンや、肉料理が出ていたのかもしれないと私は考える。

これらの私が思った・考えたことは、全て事実から出したものだ。

次に海外に行くことが、もしあれば、こういったことも考えながら、発言していきたい。

令和7年度海外留学 福知山市立桃映中学校生徒

2日目の自然体験学習です。ロッキーポイントパークは、曇りの中でも、山々が輝いていて、見たことない鳥や花も、新鮮味があったし、自然の空気を、いっぱいいっぱい吸っていると、穏やかな気持ちになりました。その後、バディや他の留学生たちと、知らない遊びをやるのも楽しかったです。遊び方が分からなくても、バディが、分かりやすい英語で教えてくれるし、他の留学生のみんなも、遊びを通して、親交を深めていけるのは、人との繋がりを実感できる気がしました。その後は、アイスクリーム屋さんで、アイスを食べたんですが、私が、サイズや支払い方が分からなかった時に、バディが助けてくれて、初めての海外のアイスも、お金の支払い方も、とても良い経験となりました。助け合う精神は、海を越えた先でも、根付いているものなのだと改めて分かった出来事だったので、すごく印象に残っています。